

授業科目

運動学実習

担当教員名 江原 義弘、久保 雅義、田巻 弘之、大西 秀明、藤目 智博、浅尾 章彦	対象学年	2	対象学科	理学・作業
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
○	◎	○		

授業の概要

筋組織の観察や筋力・筋活動の計測、動作分析などを通して、「人の動き」を分析・解釈する能力を習得し、「人の動き」について理解を深める。

授業の目的

「人の動き」についてを深く知る。

学習目標

1. 動作分析装置を利用して計測した生体運動を分析することができる
2. 筋収縮と関節トルクとの関係を説明できる
3. 筋電計を用いて動作時の筋活動を正確に計測し、その結果を説明できる
4. 筋組織を観察し、筋肉の構造と収縮メカニズムについて説明することができる
5. 上位中枢から骨格筋に至る生体電気信号の下行経路を説明できる

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	担当教員
1	課題I：三次元動作分析	江原 義弘、久保 雅義
2	課題I：三次元動作分析	江原 義弘、久保 雅義
3	課題I：三次元動作分析	江原 義弘、久保 雅義
4	課題I：三次元動作分析	江原 義弘、久保 雅義
5	課題I：三次元動作分析	江原 義弘、久保 雅義
6	課題I：三次元動作分析	江原 義弘、久保 雅義
7	課題II：関節角度と関節トルクとの関係	藤目 智博
8	課題II：関節角度と関節トルクとの関係	藤目 智博
9	課題II：関節角度と関節トルクとの関係	藤目 智博
10	課題II：関節角度と関節トルクとの関係	藤目 智博
11	課題II：関節角度と関節トルクとの関係	藤目 智博
12	課題II：関節角度と関節トルクとの関係	藤目 智博
13	課題III：筋電図計測・解析	大西 秀明
14	課題III：筋電図計測・解析	大西 秀明
15	課題III：筋電図計測・解析	大西 秀明
16	課題III：筋電図計測・解析	大西 秀明
17	課題III：筋電図計測・解析	大西 秀明
18	課題III：筋電図計測・解析	大西 秀明
19	課題IV：筋組織の観察	田巻 弘之
20	課題IV：筋組織の観察	田巻 弘之
21	課題IV：筋組織の観察	田巻 弘之
22	課題IV：筋組織の観察	田巻 弘之
23	課題IV：筋組織の観察	田巻 弘之
24	課題IV：筋組織の観察	田巻 弘之

25	課題V：視覚・聴覚刺激に対する運動反応時間計測・解析	浅尾 章彦
26	課題V：視覚・聴覚刺激に対する運動反応時間計測・解析	浅尾 章彦
27	課題V：視覚・聴覚刺激に対する運動反応時間計測・解析	浅尾 章彦
28	課題V：視覚・聴覚刺激に対する運動反応時間計測・解析	浅尾 章彦
29	課題V：視覚・聴覚刺激に対する運動反応時間計測・解析	浅尾 章彦
30	課題V：視覚・聴覚刺激に対する運動反応時間計測・解析	浅尾 章彦

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書						
その他の資料	別途連絡する					

評価方法

実習態度、レポート、口頭試問

履修上の留意点

- 6名で1班を構成して実習を行う
- 6班(36名)で1グループを構成する
- Tシャツ・短パンの上にジャージ等を着用して授業に参加すること
- 実習に対する予習を十分に行ってくること

オフィスアワー・連絡先

各教員のオフィスアワー・連絡先は授業開始時にお知らせします